

地域社会と連携した活動 メディアを通じた社会との連携

鉄道をご利用いただく方々と地域、それらを取りまく社会へ向けてさまざまな活動やイベント・メディアを通じた“接点”づくりを進めています。

地域と連携した植樹活動

鉄道沿線からの森づくり

1992年から「鉄道沿線からの森づくり」として各支社で植樹を行い、2007年度までに約3.8万人の参加と26万本を植樹しました。さらに、より多くの方にご参加いただけるよう、支社それぞれがアイデアを凝らしています。例えば八王子支社では埼玉県民の日に飯能市と協力して植樹を行い、多くの子供たちも参加しました。

●安達太良ふるさとの森づくり

「安達太良ふるさとの森づくり」は福島県安達太良地域の国有林で2004年から行っている植樹活動です。

第4回目となる2007年からは、福島県二本松市で17種5万本を3年間かけて植樹していきます。自然に近いかたちで密植・混植し、自然淘汰などを経ながら「ふるさとの森」をつくりあげていく計画です。

2008年はJR東日本グループ社員のほか、地元のみなさまや一般の方など約1,200名の方にご参加いただき1.7万本の苗木の植樹を行いました。



安達太良ふるさとの森づくり

●秋田下浜海岸植樹

JR東日本が保有する秋田市下浜海岸の鉄道林(羽越本線沿線)では、近年、松食い虫などにより立ち枯れの被害が出ています。秋田支社では、2005年から(財)イオン環境財団と共催で、「秋田下浜海岸植樹」を開催しています。2008年は秋田県内の主要駅やイオングループの店頭で募集したボランティアなど約1,100名にご参加いただき、カシワ・クロマツ等の苗を1万本植樹しました。



(財)イオン環境財団と共催した「秋田下浜海岸植樹」

環境コミュニケーション

メディアを通じた社会との連携

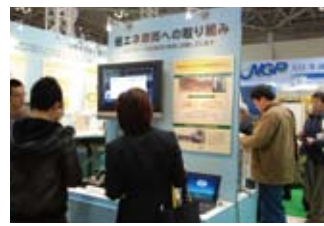
環境と社会へ対するJR東日本の取り組みを、正確かつわかりやすく伝える「環境報告書」(2002年から「社会環境報告書」)を1996年から毎年継続して発行しています。また、グループ会社では、2004年からジェイアール東日本商業開発(株)が環境報告書を発行しています。

さらに、お子さま向けの小冊子「おおきくなーれ、エコのきもち。」や、2005年度からは社会環境報告書の抜粋を新幹線車内情報誌「トランヴェール」に掲載し、多くのご意見・ご感想をいただいています。このほか、インターネットや列車内のポスターなどのメディアを通じても情報を発信しています。

●イベントでの情報発信

「エコプロダクツ2007」に出展し、JR東日本グループの環境活動を紹介。「発電床」のデモ実験、「回生ブレーキ」の模型展示、シミュレータを活用した「世界初のハイブリッド鉄道車両」の紹介などを行い、約2,800名の方にご覧いただきました。

また、各地の車両センターや車両製作所の公開イベントにおいて環境への取り組みをご紹介したほか、自治体などと連携して、各地域のイベントにも参加しています。



世界初のハイブリッド鉄道車両をシミュレータで紹介した「エコプロダクツ2007」

●エコツーリズムの推進

観光を通じて、日本の自然や文化への愛着を深めていく「エコツーリズム」。世界遺産の白神山地の魅力をお伝えする「ブナの学校出前講座」の開催のほか、「ブナの学校本校コース」へは500名を超える参加がありました。また各地の駅を拠点にした「駅からハイキング」も継続して実施し、2007年度は、446回実施、約18万名の方にご参加いただきました。